

東京の産業と教育

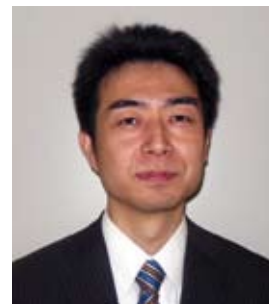
会 の 目 的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

「生徒の技術・技能の習得に向けた取組 ～都立専門高校技能スタンダード～」

東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長

白 井 万 寿 雄



近年、高度情報化やグローバル化に伴う社会・経済の構造的な変化など、都立高校や生徒を取り巻く状況は大きく変化しています。特に産業界においては、産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、職業は多様化し、職業人に求められる技術・技能は高度化していることから、職業教育・専門教育に対する社会の期待はますます高まっています。このことは、平成 23 年度に都民に対して都立高校に関する意識調査を行った結果にも表れており、「これから都立専門高校の教育で特に取り組むべきことは何だとお考えですか。」という問いに対し、「専門的な知識や技術をもつスペシャリストを育てること」が、最も多かった回答でした。

他方、都立専門高校から就職する者は、学科によって差異があるものの専門学科卒業生の約 4 割に留まり、以前と比較して進学者が増加してきた傾向があります。目的意識が希薄なまま進学を選択している生徒も見受けられ、専門高校の特色を理解した上で学ぶ意欲と目的意識をもった生徒を確保するとともに、生徒一人ひとりの資質や能力を高め、生徒が希望する進路につなげる支援を充実していくことが必要です。

これらの課題をふまえ、東京都教育委員会は、社会の期待に応え、将来の東京の産業を支える人材を育成する魅力ある専門高校づくりを一層進めていくため、昨年 2 月に策定した「都立高校改革推進計画第一次実施計画」において、「専門的な技術・技能の確実な習得」を掲げ、専門高校の改善に向けた取

組を進めてまいりました。

その具体的な取組の一つとして、本年 4 月に、都立専門高校の生徒の専門性の向上を図るため、専門高校において生徒が身に付けるべき、専門分野に関する主な技術・技能の具体的な内容を「都立専門高校技能スタンダード」として策定しました。この技能スタンダードでは、高校在学中に身に付けるべき専門分野に関する主な技術・技能の目標を、具体的に、基礎・標準・応用・発展の段階別に明示しています。各学校は、これに基づき、自校の技能スタンダードを作成し、学校としての共通の目標の達成に向けて、組織的に指導を行っていきます。さらに、社会で求められているこれらの技術・技能を、生徒一人ひとりに確実に習得させるため、習得状況を確認・評価し、習得が不十分な生徒に対しては、繰り返し指導するなどして、生徒への技術・技能の定着と伸長を図ります。あわせて、生徒が資格・検定に挑戦し、学習の深化を図ることも大切であり、技能スタンダードでは、生徒に取得を推奨する主な資格・検定についても明示しております。そして、平成 27 年度からの全ての都立専門高校（職業学科）での実施に向け、今年度は推進校 10 校において技能スタンダードに基づく指導を先行実施しています。

今後も、このような生徒の技術・技能の習得に向けた取組に加えて、社会の期待に応え、将来の東京の産業を支える人材を育成するために、専門高校のさらなる改善を推進してまいりますので、よろしくお願いいたします。



〈実践報告〉

世田谷総合高校における系統的な

キャリア教育の取組み

東京都立世田谷総合高等学校

副校長 濱田 准一

1. はじめに

本校は平成20年に開校した東京都で8番目の総合学科高校である。母体校の工業高校から引き継いだ広大な敷地と充実した施設・設備を活用して、普通科の科目に加え、「ものづくり」「ホスピタリティ」など特色ある学校設定教科・科目を開講し、生徒の生きる力を育成し、進路実現を図っている。

2. 特色ある教育活動

(1) 1年次「産業社会と人間」～気付く

1年次では「産業社会と人間」の授業を通じて、『これからの自分』について真剣に考える機会を多く与えている。「自分とは」「働くこととは」「大学とは」などの問いに様々な体験的なプログラムを通して、生徒一人一人が考え、自分なりの答えを探していく（気付く）ことに重点を置いている。

生徒達は、1泊2日のフレッシュマンセミナー（4月）で高校生活における決意を固め、「大学訪問」で大学の雰囲気を感じ、「職業人インタビュー」で人生における仕事の重要性を再確認し、『これからの自分』の活動指針を各々が設定していく。それらを通して、自己理解・自己管理能力を育み、キャリアプランニング能力の向上を図っている。

(2) 2年次「総合」・「奉仕」～広げる

2年次では「総合」の授業の中で「国際理解」学習、「奉仕」を行い、地域社会、国際社会に目を開かせ、進路決定に向け視野を広げさせることに重点を置いている。その中で人間関係形成・社会形成能力の向上を図っている。

「国際理解」学習では、講演や留学生との交流などを通じて、国際社会の課題を知り、他者理解の視点を育んでいる。

「奉仕」では今年度より地域連携委員会を立ち上げ、キャリアの視点を重視した体験学習を進めている。「子ども」「高齢者」「障害者」「環境保全」「まちづくり」「国際支援」の6つのテーマに8つの体験プログラムを用意し、生徒の希望に応じてグルー

プ毎に学習を進めている。各プログラムは自治体や地域商店街、近隣小学校、NPO法人、ボランティア団体等との連携により、より実践的な体験活動を行っている。本校近隣の豊かな自然を利用した緑地整備のプログラムでは、慣れない手つきながら一生懸命、鎌で草を刈ったり、のこぎりで竹を切っている生徒たちの姿が見られる。小学校で子どもたちと楽しそうに接している生徒、福祉施設で高齢者と積極的にコミュニケーションを図っている生徒、いずれも校内ではあまり見ることでできない生き生きとした表情を見せてくれている。

これらの活動を通じて、生徒は社会の様々な課題を体験的に理解し、主体的・自発的に行動する力を身につけている。また、他者や社会と共に生きる姿勢を学び、社会に貢献しようとする姿勢も育ってきている。

(3) 3年次「課題研究」～極める

3年次では「総合」の授業の中で、3年間のキャリア教育の集大成として「課題研究」を行っている。生徒は自らの興味・関心、進路に関わる一つのテーマを設定し、指導する教員の下、ゼミ形式で研究を進めている。2年次の後半より、情報処理などのスキル学習を行い、課題発見、計画立案、情報の選択、課題解決の一連の流れの中で、課題対応能力の育成を図っている。

研究の成果は各グループ毎の発表会で報告され、その中の優秀な研究は1・2年生の到達目標として、全校生徒参加の発表会（12月）にてプレゼンを行わせている。

3. おわりに

開校6年目を迎え、本校を巣立った卒業生が希望進路の実現において大きな実績を残してくれた。これは開校以来進めてきた本校の特色ある教育活動の成果が現れたものと考え。今後も生徒の進路実現を図りつつ、自立した社会人を育成するため全教職員が一丸となって総合学科教育を進めていきたい。

〈実践報告〉

Only One のものづくり

～注目される工芸・デザイン系の専門高校として～

東京都立工芸高等学校

副校長 守屋 文俊



本校は、明治40（1907）年の創立以来、工芸・デザイン系の専門高校として、「誠実」「元氣」「信愛」「規律」を校訓に、教養と人格の向上を図り、社会の変化に対応できる産業人を育成することを目標とし、専門知識や技術を身に付けるとともに創造力・表現力・美的感覚を高める教育を推進することにより、人間国宝をはじめ、多くの広く社会で活躍されている卒業生を輩出してきました。

1 各科の学習内容の紹介

（1）アートクラフト科

アートクラフト科では、私たちの身近にある工芸品や装身具などのデザインから制作までの理論と制作技術を学びます。構成や色彩デザインはもちろん、自分で考案したデザインが美しく、使い易いかどうかを実際に制作することで探求します。

（2）マシンクラフト科

「マシンで創る自分のかたち」をキャッチフレーズに、ものづくりを通しての自分づくりを目指しています。

（3）インテリア科

インテリア科では、「家」や「学校」、「お店」といった私たちの毎日の暮らしを支えている身近な場所をいかに快適に居心地良いものにするかを考え、創造していくことを総合的に学習します。

（4）グラフィックアーツ科

グラフィックアーツ科は、広告（ポスター）、公共施設リーフレット、書籍などの紙のメディアを中心に、Webデザインや2D・3DのCG・アニメーション、デジタル映像などのコミュニケーションメディアについて総合的に学習します。

（5）デザイン科

デザイン科では、発想力・創造力のスキルアップ、構成・配色など美的造形力の訓練、様々な表現技術の習得、提案力・発表力の強化などが主な学習内容であり、表現や素材について幅広く学びます。21世紀のより豊かな生活のために、「ものづくり」で社会貢献し活躍していくことのできる、やわらかな発想、確かな技術、

果敢な行動力を持った、人間性豊かなデザイナーの育成を目指します。

2 視察の多い学校

都の高校の中でも視察が多い学校である本校は、毎月2～3回は視察が入る学校です。海外の高校や教育関係者、大学、高校と様々である。昨年度には、野田佳彦前内閣総理大臣が視察に訪れました。

昨年11月17日（土）野田前首相は、1学年の旋盤や鋳造の実習を見学した後、2学年生徒による指導で、銀の携帯ストラップづくりを体験しました。生徒の制作した作品も見せていただきました。

その後、3学年の教室において、「夢と志」について生徒に向けてスピーチをしていただきました。「皆さんにはこの学校で学びながら、ぜひ志を固めていていただきたい」「この伝統ある工芸高校で学ぶことは、日本だけでなく世の中全体、世界全体に役に立つ仕事を見つけるチャンスになる」「ものづくりは日本の得意分野。ものづくり現場での技術の向上が日本製の評価につながってきた」と述べ、「すぐれたデザインが伴うことで品質の良さにさらなる価値の高まりをプラスすることにもなる。」「皆さんにはぜひ、世の中の役に立ちながら、世界に浸透するような“もの”を作り出していくという志をもっていただきたい。」とお話してくださいました。

また、「素志貫徹」という言葉を板書し、「素朴にこんなことで世の中に役に立ちたいと思う気持ちを大事にし、ずっと持ち続けることが人生を大きく変える」「『こんな分野でやってみたい』と思うイメージを大事に持ち続けてほしい」「常に志をいだきつつ、懸命になすべきをなすならば道は必ず開ける」とお話しくださいました。

これからも都立工芸高等学校は、工芸・デザイン系の専門高校として、本物に触れ、本物をつくっていくことにこだわり、絶えず注目される学校として発展していきます。

株 式 会 社 キ ト ウ

資本金 2,400 万円 代表取締役 鬼頭 眞一郎
〒 101-0052 東京都千代田区神田小川町 1-10
TEL 03-3253-3741 FAX 03-3253-3745

昭和 27 年創業以来、中学校技術科教材の専門業者として、教材ならびに技術科室設備、機械工具の開発、販売を行ってきました。

技術の進歩や社会の変化と共に技術科で学ぶ内容も変化しましたが弊社は常に“子供達にものづくりを通して考える力を身につけてもらう”という理念を大切に守ってきました。

また指導要領の改訂に対応しながら安全な作業環境の実現を目指して工作機械や工具のメンテナンス業務の充実や治具の開発に注力しています。現在は中学校技術科の先生方だけでなく、特別支援学校で木工作業を担当される先生方を対象とした研修会も実施しています。

弊社の教材を通じてものづくりを学んだ子供達が皆、自ら考え、判断できる大人になってくれることが弊社の願いです。



日 本 自 動 ド ア 株 式 会 社

本社：東京都中野区上鷲宮 3-16-5
代表取締役社長：吉原二郎
TEL:03-3970-2511 FAX:03-3970-2525 <http://www.jad.co.jp/>

<創業>

昭和 41 年 6 月 30 日

<従業員数>

200 名

<事業内容>

自動ドア開閉装置の製造・販売・施工・保守メンテナンス・研究開発およびそれに関連する一切の事業
<営業拠点>

札幌、盛岡、仙台、郡山、新潟、宇都宮、埼玉、千葉、横浜、大手町、松本、静岡、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、四国、北九州、福岡、熊本、沖縄



<経営理念>

「私達は自動ドアを通じて人類社会に貢献します」

つまり、私たち日本自動ドアの使命は、手でドアを開閉することにデメリットを感じている全ての人の悩みを解決する事です。

<青少年へのメッセージ>

私たちは、これまで「人にやさしくて環境にやさしい自動ドア」を通じて様々な快適なエントランス空間を手掛けてきました。今後は社会貢献に注力し、NPO 法人全国自動ドア産業振興会の自動ドア設置寄付事業や一般社団法人ランプアップいわて様のモバイルスロープ「ランプ」の普及活動を通してエントランスの完全なバリアフリー化を推進して参ります。これからの将来を担う方々にも、ぜひ企業活動を通じた社会貢献に参加して自己研磨をして欲しいと思います。

技能五輪を目指して

都立園芸高等学校

園芸科 3年塚野尋之

私は現在、園芸高校で農業全般について実習と座学を交えて詳しく学んでいます。今では、日常的に食べている野菜や果物が市場に流通されるまでの過程を知り、私達を取り巻く自然環境の大切さを実感しています。二年次のコース選択ではガーデニングを専攻し、造園の勉強をしてきました。授業では樹木の剪定や刈込み、竹垣の制作などを行い、時には上手くいかないこともありましたが、作り上げた時の喜びは大きく、とても充実しています。造園を学び始めてからは、旅行で訪れた京都の庭について思いをはせたり、生活圏にある様々な庭が目に残るようになり、私も人の心を打つような庭を造りたいと思うようになりました。そして、将来は庭師になりたいという思いから、小型重機やチェーンソーの資格を取得し、造園技能士の資格試験にも挑戦しました。先生方のご指導のおかげで、この夏挑戦した造園技能士二級に合格することができました。将来は一級の取得を目指しています。

今年になって、東京で行われる技能五輪の全国大会に出場してみないかというお話を頂きました。この大会に東京都の高校から出場するのは初めてということもあ

て、学校の先生をはじめ、多くの先輩方や関係の皆様が協力して下さるとの事、身の引き締まる思いです。現在、土日を使っての練習に全力で取り組んでいます。交代で指導に来てくださる講師の方々の熱意に感謝して期待に答えられるよう、「一日一日の努力を惜しまず」をモットーに精進しています。

この貴重な機会を頂いたことに感謝するとともに、園芸高校の諸先輩方の母校に対する愛情に敬意を表し見習って、その意志を引き継いで行きたいと思っています。



左が本人、右と一緒に挑戦する工藤君

第一商業高等学校に学んで

都立第一商業高等学校

3年高木香奈

私が「一商」こと第一商業高等学校の商業科に入学した理由は、高校卒業後は就職を希望していましたので、多くの資格を取得して卒業後も社会で有用な人材になりたいと考えていたから「一商」を選びました。入学前は、初めて学ぶ商業科目に「どんな勉強するのか?」「最後までやり遂げられるのか?」と不安もありましたが、基礎から学ぶことができたこと、補習などが充実していて丁寧に指導していただいたこともあり、今では簿記、電卓、マーケティング検定などの資格を取得することができました。特に私が力を入れたのは、簿記検定です。絶対



取得したい資格の一つでした。もちろん合格を目標にしていましたが簿記を学ぶことは「企業戦略」を知ること、将来に生かせることと思って努力しました。

また、第一商業高等学校では「あいさつ」を大切にしています。「あいさつ」は社会に出れば当たり前のことですが、普段の生活の中で意識しなければ、「気持ちの良い挨拶」をすることは出来ません。高校生活の今でしか教えてもらえないことを学べる場所が、「一商」にはあると感じています。そして、検定試験に合格するために、最後まであきらめなかったこと、苦手なことに自分自身向き合うことができたこと、そして、挑戦する精神をもつことができて成長を実感しています。また、「一商」では、全国商業高等学校協会主催の簿記検定2級を全員が合格します。クラス全体でも検定試験に「みんなで合格しよう」というムードが生まれ、仲間同士で支え合い、磨き合うことのすばらしさを学びました。

就職活動においては一流百貨店の内定を勝ち取ることができました。卒業後は「あいさつ」や一般常識、そして取得した検定資格を自信に変え、たゆまず努力する姿勢を失わずに何事にも取り組んでいきたいと思っています。

平成25年度 講演会報告（講演要旨）

「社会総がかりでキャリア教育の 実践を！！」

講師 朽原 克彦 氏

（日本商工会議所理事）



本日は、都産振の総会にお招きいただきましてありがとうございます。私どもの気持ちが少しでも皆様方にお届けできればとうことで、お時間を拝借する次第です。

【商工会議所とは】

1599年にフランスのマルセイユにできたのが、そもその発端です。日本では、明治11年に渋沢栄一翁が設立し、商工会議所は世論の形成、殖産興業のために活動を始めました。

商工会議所法に基づき設立されている商工会議所は、企業と社会を結ぶ役割を持ち、行政や企業のみならずいろいろな団体、NPO、市民との接点剤になりえる性格を持っています。また、全国514商工会議所の総会員数は127万人にのぼり、海外の商工会議所も含めた幅広いネットワークを使い、中小企業活力強化や地域経済活性化等のために、政策提言活動や具体的な事業を行っています。

1. 商工会議所とは②

日本における主な歴史

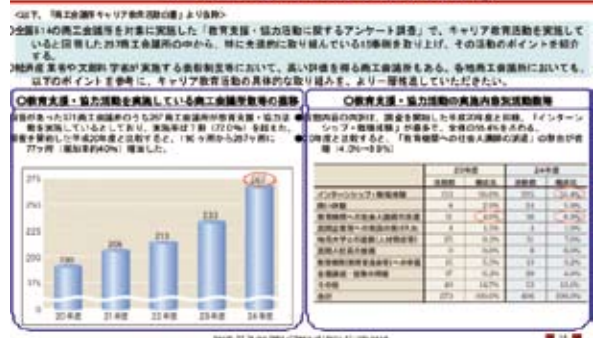
- 明治11(1878)年3月 日本初の「東京商工会議所」設立（初代会長：渋沢栄一）
 - 商工業者の声を国の政策に反映させるために発足。
 - 以来、行政への意見具呈は、今日に至るまで最も重要な活動。
 - 従来の商工会議所（商人・地主・自由、商會会館により運営）を模範に設立（大阪（8月）、神戸（10月）と続き、明治18年（1885年）までに32の商工会議所が誕生。
- 明治23(1891)年 全国の経済の発展と国際化の進展に伴い、会館制の強化が必要とされ会館が施行。
- 明治25(1892)年 全国15の商會会館が商會会館連合会設立（自衛の前身）
- 昭和20(1945)年 商會会館の機能強化のため、数年の歳月を経て、現在の商會会館法が成立（議員立法、同年10月施行）
- ＜設立は国による認可制をとっているが、地域の商工業者の自主的な発意に基づいて設立＞

【社会総がかりでの教育支援活動】

第一次安倍内閣で教育基本法の抜本改正が行われることとなり、社会総がかりで教育支援活動を推進することが、政府、産業界でも共有され、商工会議所がその中心的な役割を担うべく「教育再生に関する意見」を取りまとめ、全国の商工会議所へ取り組みを呼びかけました。

これを受け、教育支援・協力活動を実施している商工会議所数は、平成20年に190だったものが平成24年には269に、活動数は平成20年に273だったものが平成24年には406に伸びています。

3. 地域力の底上げをめざす キャリア教育実践事例の紹介①



【具体的事例】

東京商工会議所では、教育・人材育成委員会を設置し、キャリア教育の推進策等についての調査研究や教育政策に関する提言活動などを行っています。また、都立高校の教員採用試験の面接官の派遣や都立高校の10年目教員のインターンシップ受入れ先の開拓にも協力しています。その他、東京商工会議所の各支部でも様々な活動を行っています。

墨田支部では、講演会や講習会を行いマナー向上や職業観の醸成、製造業の体験や模擬的なワークショップ等を実施しています。豊島支部では、夢の職業にフォーカスし、サッカー選手、ダンスのインストラクターなど「憧れの職業人」が子ども達とふれあい、文化的な夢のある職業に就く手伝いをしています。荒川支部では、理数系に焦点を当て、先端科学研究者の講義を聞く機会を作っています。

日立商工会議所では、「ひたちものづくり探索少年団」という、ものづくりのための職業観の育成に役立つような活動をしています。

足利商工会議所では、「5 S運動」（整理、清掃、整頓、清潔、躰）に軸足を置いて活動をしています。

前橋商工会議所では、街全体を大学のキャンパスにみたとて、商業系、工業系、医療福祉系のイベントを1年間通して実施しています。

川口商工会議所では、川口ブランドのIH鍋、釜を作り、地元のSOGOで販売するに至っています。

狭山商工会議所では、事業の立ち上げから仕入れ・販売までを模擬体験させています。

草加商工会議所では、ものづくりイコール産業観光という位置づけで、観光産業とものづくりを一体にして教育しています。

横須賀商工会議所は、日本全国で一番の先進事例です。地域の人材は地域で育て、地域の企業に送り込むということをモットーに活動しています。

三島商工会議所では、理数系の子ども達を育てたいということで、ものづくりの面白さや醍醐味を伝える活動を実施しています。

半田商工会議所は、教育委員会改革まで深くかわかり、答申にも協力しています。

瀬戸商工会議所は、事務を一手に引き受けて地域との接着剤、プラットフォームの役割を果たし、地域総がかりでキャリア教育事業を行っています。これも横須賀に次ぐ先進事例です。

桑名商工会議所では、工業高校等の学生が実際に企業の工場現場に行って実体験するというインターンシップを平成8年から実施しています。

御坊商工会議所は、最先端のロボットを招聘し、ものづくりへの理解を深める活動を行っています。

福井商工会議所青年部は、地元の優れた企業を通じ、ものづくりの良さを伝えて将来の地域を担う人材育成をしています。

会津若松商工会議所青年部は、模擬会社を設立・運営する体験を通して自分たちで決め、自ら行動する習慣をつけさせるような活動を行っています。

商工会議所でも検定試験を実施しており、すべてジョブカードに記載できるようになっています。検定試験を受ける過程でいろいろな知識が身に付きます。現場の先生からは「資格の価値を教えれば、学生も積極的に受験するようになる」、生徒からは「最初は難しくて全く分からなかったが、卒業する頃になると必要性や重要性が分かってきた」等の声も聞かれます。

【産業界からみた教育界への期待】

1つ目は、幼少期から職業観の醸成を図っていただきたいという事です。子ども達の職業観の醸成に資する教育体系にしていきたいと思います。

2つ目は、社会人基礎力を身につけていただきたいという事です。企業と学校のミスマッチもあるのではないかと思います。社会人基礎力を付けた人が企業に就職し、すぐに働いていただけるような時代になってほしいと思っています。

3つ目は、起業家精神を養ってほしいという事です。起業家精神は、結果的に会社を起さなくても会社の中で役立つので、教育の中で少しでも起業家精神を涵養できるよ

うにならないかと思っています。

教育界や企業の方に、今の学生に不満があるか聞くと、不満を持っていると答える人は少ないです。ただ、社会人になって責任を果たす意識、組織人としてしっかり仕事をする意識が足りないのではないかと思います。道徳的な話になりがちですが、幼い時からそのような訓練をされていない人が多いのではないかと思います。

先日、リクルート・キャリアの担当者から話を聞いたのですが、有効求人倍率が0.65と低いから大学生が就職できないというのは、データの読み違いであり、転職する人たちも含めた平均が0.65で、2014年3月に卒業する大学生の有効求人倍率は1.28あるそうです。これは、全学生が就職できる倍率です。

ところが、計画していた採用数に満たなかった場合の対応を企業に調査すると、3割の企業が「採用しない」、5割の企業が「求める人材レベルは下げない」という回答だそうです。求人はあるけれども、求人のレベルに達しない学生が3割いるという状況です。社会人基礎力、職業観、責任感、熱意が足りない等いろいろなケースがあると思われますが、決して不況だから採用されないのではなく、学生にもう少し頑張ってもらう必要があるということです。

企業側からみると、求める人材レベルを下げてまで採用しようとは思っていないので、送り出す大学、高校側の方は、企業が求める人材レベルに近づける学生を育てることが重要になってくるのではないかと思います。やはり一過性の職場体験では職業観の醸成はできないので、幼い時から育てていくことが必要であり商工会議所としても深掘していく必要があると思っています。

グローバル人材の育成については、単に英語力の有無だけでなく、近代史を教えていないのが問題だという指摘があります。明治の終わりや大正時代、戦前からここ数年の社会環境の変化をしっかりと勉強しておかないと近隣諸国と付き合えません。どこを教えて、どこは教えないという問題は機微に触れる話ではあるのですが、正しく教えないとビジネスはできないのではないかと問題提起されています。グローバル化が進めば進むほど避けて通れない問題です。

最終的には、社会貢献に通じる規範意識や責任感、社会を生き抜く力、自分自身のライフプランのようなものをしっかり持つことが大事だと言われています。社会人基礎力というところに行き着いてしまうかもしれませんが、教育現場を越えて大人たちが子ども達にしっかりと教えないといけない共通の課題ではないかと感じています。少しでも斟酌していただければ幸いです。とりとめのない話でしたが与えられたお時間となりました。ご清聴ありがとうございました。

(質疑応答が活発に行われましたが、割愛しました)

新 会 員 校 の 紹 介

日本工学院八王子専門学校

〒 192-0983 東京都八王子市片倉町 1404-1
TEL 042-637-3111 FAX 042-637-3112

本校は 1947 年創美学園として設立以来、高度成長時代を担う放送分野や、エレクトロニクス分野での人材育成を行ってきた日本工学院専門学校（東京都大田区）の姉妹校として、1987 年に東京都八王子市に開校しました。「クリエイターズ」「デザイン」「ミュージック」「IT」「テクノロジー」「医療」「スポーツ」の 7 つのカレッジを設置し、姉妹校に日本工学院北海道専門学校、併設校に東京工科大学があります。38 万㎡の広大なキャンパス内には、図書館、最新のソフトがインストールされたコンピュータ&テクノロジーセンター、スタジオ、ホール、充実した体育施設を完備しています。特に今年度、最先端技術教育を行うため、印刷と同じ技術で立体を作る 3D プリンターなどを導入した「メイカーズラボ」、ソーラーパネルや各種スマート家電、蓄電池などの技術を結集した次世代型省エネ住宅「スマートハウス実習棟」など最高の実習設備を整備いたしました。

●より充実した教育を提供する「教育設計図」

本校では、就職難の時代に対応し学校の本質である学生への教育をより充実させるべく、長年積み上げてきた教育ノウハウを結実・体系化した「教育設計図」を確立いたしました。これは、“すべての学生に就労に必要なスキルを身につけさせること”を目的とした、全く新しい教育カリキュラムです。この「教育設計図」に基づいた「専門力」と「人間力」を身につけさせるべく教育を行い、学生全員が就職・デビューを叶えることができるよう徹底サポートしております。



新 副 会 長 に 小 林 治 彦 氏

故久保村前副会長の後任選出のための臨時理事会が去る 11 月 18 日（月）都庁にて開催されました（役員理事 21 名出席）。本会会則第 6 条の規定により、副会長は理事会で選出することになっています。西澤会長の推薦により、小林治彦氏（東京商工会議所 総務統括部長）が全会一致で選出されましたので報告いたします。

産学懇談会、産業教育功労者表彰式 開催される

11 月 14 日（木）に当会主催の産学懇談会が都立農芸高等学校を会場に開催されました。また、産業教育功労者表彰式が 11 月 18 日（月）都庁第二本庁舎 3 1 階特別会議室 25 にて挙行されました。両会の詳細につきましては、来る 3 月発行の本会会誌「東京の産業教育」第 51 号に掲載いたします。

東京都産業教育振興会 ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

事務局より

- 平成 25 年度会報「東京の産業と教育」第 145 号をお届けいたします。発行に際して、執筆頂いた皆様、ご協力頂いた皆様に感謝いたします。
- 東京都の産業教育をさらに発展させるための情報等がございましたらお知らせください。また会員の皆様からのご感想ご意見等をお寄せください。

発行 東京都産業教育振興会

〒 163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部

高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

FAX 03-5388-1727

印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています